

XIII. 輸液について

1. 輸液の作り方

1) 混注前あるいは後のいずれかのタイミングで、全ての薬品を看護師2人でダブルチェックする
ダブルチェック後は、注射ラベルにレ点をする

- ・相手に薬品内容を読んでもらい、自分は目で確認
- ・実施日 ？年？月？日？曜日（開始・終了）
- ・患者の名前・薬品名（一回量）・時間・種類（筋肉注射、静脈、皮下など）

☆ありがちな間違い⇒日付、薬品の一回量、単位

2) 輸液混注前に指示書と照合

- ・日付・時刻・内容・患者の名前

☆連休などはまとめて点滴がくるので特に注意

3) クリーンベンチ内で混注

- ①手袋着用し、ウェルパスで消毒する
- ②注射実施入力システム画面と薬品、ボトルの注射ラベルを照合
- ③混注したらゴム部をアルコール綿で拭き、滅菌シールを貼る
- ④患者別にトレイを使用し混注済みボトルに加え空アンプルを必ず一緒に置く

4) ルートをつなぐ

- ・CVメイン：フィルター付きポンプ用セット、側管：手動用セット
- ・DIVメイン：DIV用セット、側管：手動用セット
- ・アンギオ：ポンプ用輸液セット+延長チューブ付き三方活栓×3
- ・PET/ミエロ：ポンプ用輸液セット+延長チューブ+シュアプラグ(2個付き)+延長チューブ
- ・γ-ナイフ：手動用セット+延長チューブ+シュアプラグ(2個付き)

5) 準備クリックをする（バーコード読み取り）

☆注射実施入力システム画面に不明な点がある時は必ず担当医に確認すること

ex) 流量の入力がない場合、Drへ入力を依頼する

☆抗癌剤を含むもの、又は抗癌剤使用前後の輸液の注射実施入力システム画面には必ず研修医のサインの他に指導医のサインがあるかを確認

☆抗癌剤作成はバイオロジカルハザードで医師が行う

☆注射実施入力システム操作マニュアル参照

2. 輸液をつなぐ

1) ベッドサイドに端末を必ず持参

2) 患者のリストバンドを見ながら本人かどうかを確認

- ・「名前を聞かせて下さい」と問う
- ・輸液ボトルの名前を赤丸で囲む

3) ・ラインを接続する「○○○○さんですね」と声を出し、注射ラベルとリストバンドをバーコードリーダーで照合

4) 滴下を開始する

☆ ポンプ使用の場合、完全にセットされているか・滴下設定は正しいか・クレンメは開いているか・ポンプの設定量・速度は正しいか確認する

5) 実施欄にチェックする